

しろくま通信



前々回より「お盆」について書いています。

地獄に向かった目連（もくれん）は母親を助けるために、この世に戻り、托鉢（たくはつ）をして食べ物、飲み物を得て餓鬼道（がきどう）の母親に届けます。

しかし、母親が食べ物を口に入れようとするすると燃えて無くなり、飲み物は針の穴より細くなった喉を通りません。さらに托鉢を繰り返し母親に与えますが、結果は同じです。

困り果てて釈迦に相談すると、母親は「自分の息子さえよければ、他の者はどうなってもいいという考えから餓鬼道に落ちてしまったこと。これを救うには、母親だけでなく餓鬼道に落ちた他の者たち皆を救うことを考えなければ母親は救えないこと」を教えられました。



前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！

